

～写真で振り返る～

まちの快適空間づくりから
公共交通を考える

主催：国土交通省関東運輸局

2017年9月22日(金) 鶴見サルビアホール

会場前の鶴見サルビアホール



多数の来場者で埋まる会場



司会進行の運輸局交通政策部 鎌田次長



持永 秀毅

開会挨拶の持永秀毅関東運輸局長

三浦 孝

国土技術センター三浦理事の来賓挨拶

免許保有者数に対する自主返納者数の比率(全国)

● 返納者数は増加傾向にはあるものの、免許保有者数に対する割合はまだわずか。

免許保有者に対する自主返納者数の比率(全国)

	全年齢	65歳以上	70歳以上	75歳以上	80歳以上
自主返納者	345,313	327,629	276,614	162,341	103,422
免許保有者	82,205,911	17,680,387	9,771,844	5,129,016	2,090,046
比率	0.42%	1.85%	2.83%	3.17%	4.95%

(出典) 警察庁「運転免許統計」10

話題提供を行う運輸局鳥居課長

■ 話題提供～関東の公共交通、最近の状況と次の一手～

- ・ 関東管内のデータ（乗合バス輸送人員、高齢者事故件数、免許自主返納者数、コミバス等の実施自治体の割合、高齢者優遇制度の状況）の紹介。
- ・ 「待合空間」に着目し、鉄道駅・バス停のベンチ・待合室の状況、好事例（デザイン広告付きバス停、事業者と近隣自治会の協力事例等）を紹介。
- ・ 鉄道事業者へのベンチ・待合室設置状況に関するアンケート結果紹介。今後は、事業者単体ではなく、自治体や地域住民と連携した対応が必要。

基調講演1 景観から考える公共交通空間の魅力づくり



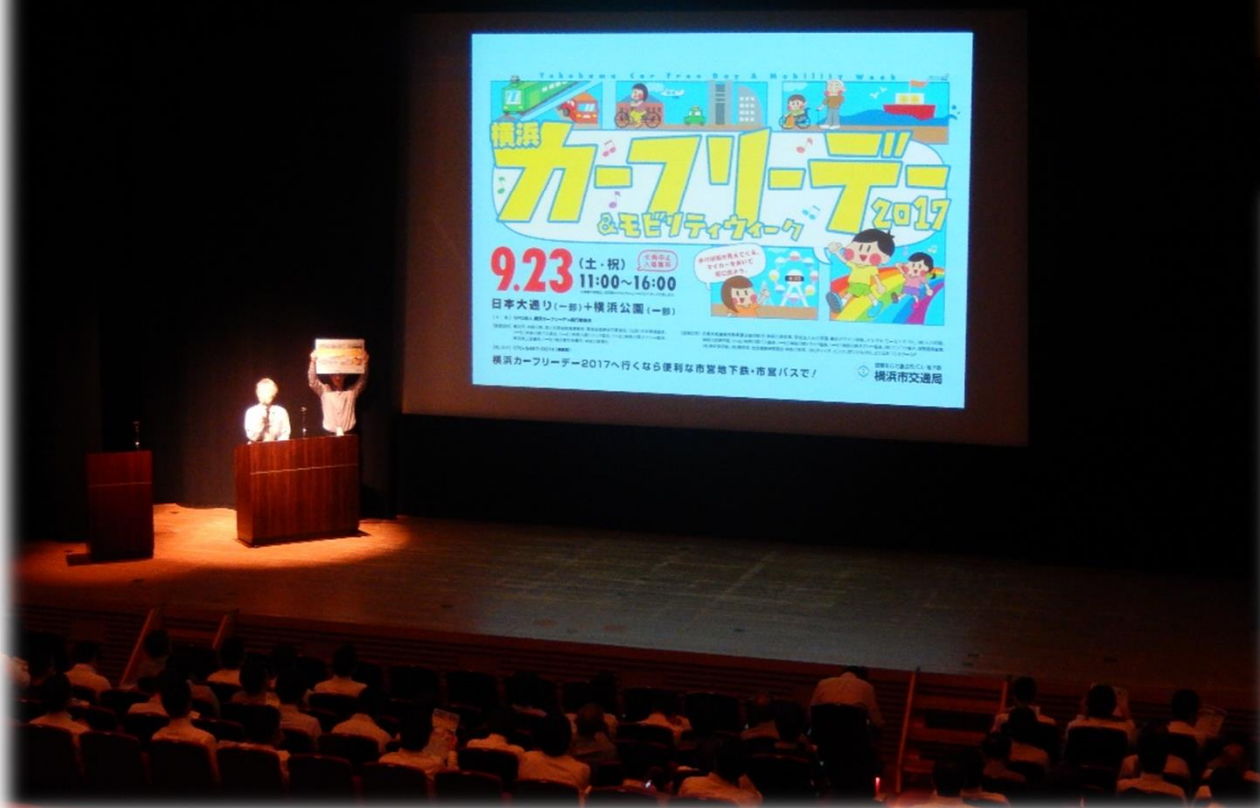
分かりやすい事例を用いて説明される堀先生



■ 基調講演① ～景観から考える公共交通空間の魅力づくり～

- ・ 景観デザインは「センス」ではなくて、論理・セオリーである。
- ・ 景観に対して、我々は「見た目」で評価しており、評価のポイントは3つ。①人は誘われるのが好き、②人は丁寧になれるのが好き、③人はよく見える部分を過大に評価する。
- ・ まちの景観の大部分は道路。沿道の建物より道路が重要。道路が、車と人間のどちらを大切にしている空間になっているかが、行ってみたいと思うか、誘われていると感じさせるかどうかの判断を左右する。
- ・ 道路で最も目立つのは舗装。ゲシュタルト（言葉で説明できる模様）の形成によるアフォーダンス（人を導くデザイン）により、人を導くことができる。
- ・ 人を誘うのには、ベンチが重要。ただベンチを置けばいいというのではなく、丁寧に誘っているベンチでなければ、ベンチとは言えない。
- ・ まちづくりには、サクラづくりも重要。サクラがすることで、「行ってみたい」、「誘っている感じ」を醸し出すことができる。
- ・ まちにきた人を誘い、丁寧にもてなすという意味を環境（景観）に持たせ、来てくれた人に伝えることが重要。
- ・ 日本の駅前広場は、物理的な機能の充足はしっかりやっているが、プラスアルファが必要。空間作りには、人を誘うメッセージや丁寧にもてなすというメッセージを持たせて、いかにそれを伝えるかという視点が必要。
- ・ これを作ればいいという決まったものはないが、それぞれの場所に応じて「丁寧に」つくることが必要。

翌日の横浜カーフリーデーをPRする
大内理事長



ミニコンサート(阿波踊りのお囃子)

基調講演2 交通と地域 領域を越えて



多数の写真を交えて、取組のポイントを説明される川西先生



■ 基調講演② ～交通と地域 領域を超えて～

- ・師である水戸岡鋭治氏から「デザイナーは公僕であれ」との教え。自身は公僕であるとともに「デザイナーは宇宙人であれ」と思っている。
- ・「デザイン」とはギリシャ語で「仕組み」。「仕組みを提案して価値や利益をもたらす」ことがデザイナーの仕事。
- ・仕事をする上で気をつけていること。①誰のために？の明確化、②分かり易い説明の徹底、③言葉にならない色気の創出、④その場にしかない価値、⑤投資コストの適正化
- ・人口減少時代の交通と街に求められる機能として、以下の3つ。
 - ①分かり易い情報発信（ユーザーがスマホを使ってすぐに乗れること等）
 - ②待ち時間の質を変える空間
 - ・土佐くろしお鉄道・中村駅のリノベーションの事例紹介。
 - 方法論は、①不要なバリアを撤去、「利用者本位」に再構成する、②美しく「見る」「見られる」空間を街に提供する、③「待ち時間」の質向上をトータルにデザインする
 - 大都市の駅とは違い、一日1千人、主に高校生が利用するのみ。モラルも保たれるので、（都会の駅では管理が難しい）地元の檜をふんだんに使用し、木に囲まれる空間をデザイン。高校生のための駅を創る、新しい駅舎でマナーも一緒に育てるというコンセプトも。
 - ③見えないニーズに応える仕組み
 - ・近鉄結崎駅の駅舎リノベーションの事例紹介（現在進行中）。
 - 地元住民を巻きこみ、「未来会議」と題して、ニーズは何か、どのような駅にしたいかを徹底的に議論。具体的なニーズだけでなく、見えないニーズ（要望を聞く方法では汲み取れないもの）、近未来のニーズについても住民参加で分析し、まちや住民にあった駅の建設を目指している。
 - ・JR枕崎駅の事例紹介。
 - 駅舎が無かったが、住民の寄付で3千万円が集まり、駅舎を建造。
 - ・「えちごトキめきリゾート雪月花」の事例紹介。
 - 新潟の風景に映える朱色ボディ。絶景を楽しめるよう天井まで伸びるワイドな窓。車内は新潟の木材・金属・織物を使用し、車内提供の食材も沿線から調達。オール新潟で創るコンセプト。

座談会 公共交通空間をどう作っていくか

これまでに手掛けた主なもの(1)

・環七シャトルバス

- 東京都江戸川区の南北交通の課題を改善するため、平成19年(2007年)運行開始
- 江戸川区地域公共交通活性化協議会を設置
- 平成21年「第1回 地域公共交通活性化・再生優良団体 国土交通大臣表彰」を受賞



金子国交大臣を囲んで記念撮影
(出典:江戸川区HP)

7



事業完了(西武秩父駅)

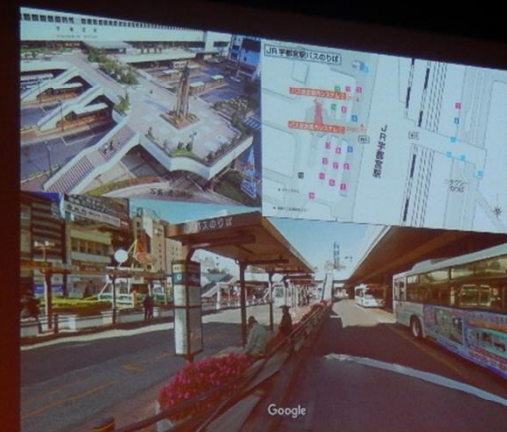
秩父エリアのブランド力向上を図り、西武秩父駅リニューアル工事を実施。観光者や地元の方々に愛される駅を目指すとともに、お客さまの利便性、快適性を向上。

駅舎外装デザインは西武秩父駅に隣接する複合型温泉施設「西武秩父駅前温泉 祭の湯」のデザインと一体感を持たせた。
2017年3月事業完了。





Seibu Group
でかける人を、ほほえむ人へ。



座談会 公共交通空間をどう作っていくか



「ここ」と移動するの
が楽しみです。

後に温泉で癒されるが
タリングを楽しんでい
ます。



■ 座談会 ～公共交通空間をどう作っていくか～

＜西武鉄道・陰山氏＞

- ・連続立体交差事業とそれに併せた駅周辺整備の紹介。連立工事で生まれるスペースを活かして、商業施設、行政施設、公共空間等を一体的に整備し、駅周辺の賑わいを創出。
- ・埼玉県西部地域まちづくり協議会との連携協定の紹介。地域の実情にあった街づくり・公共交通の姿を関係者間で共有し、協働していく必要。

＜京成バス・木下氏＞

- ・バス停は物理的制約の中で設置するため、利用者本位に設えにくい。
- ・快適なバス停空間づくりには、「作る人」、「許す人」、「使う人」、「守る人」の連携・協働が不可欠。
- ・JR市川駅北口広場の再整備の事例紹介。地元の産学官民のキーパーソンで組織する「元気!市川会」が行政と協働した活動を継続し成果。

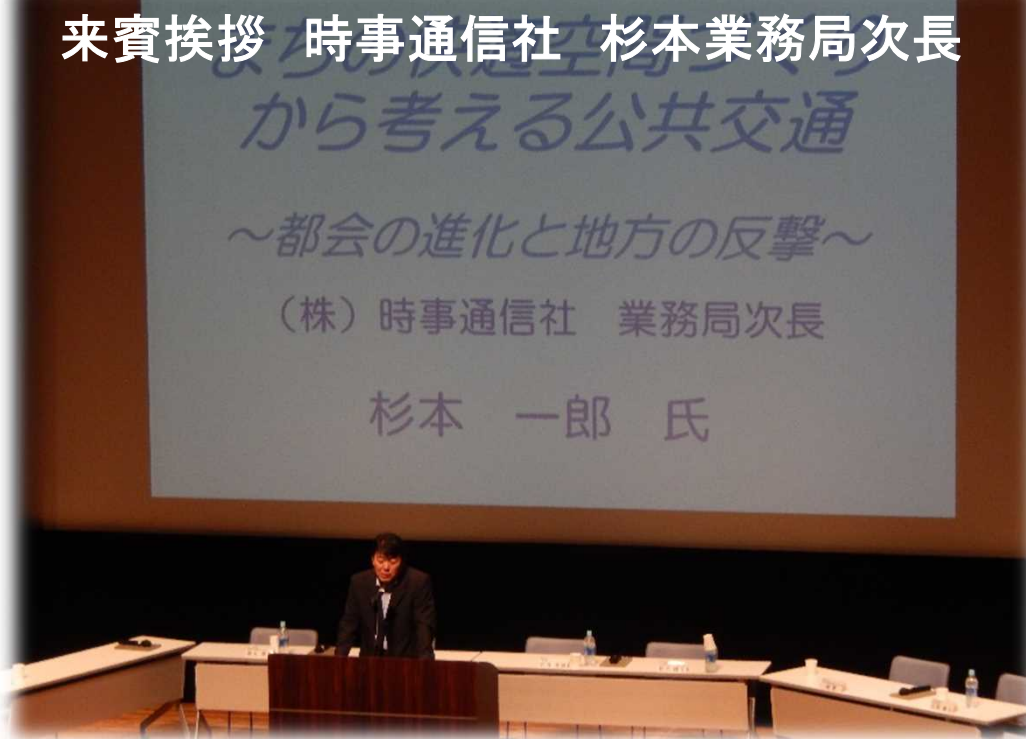
＜宇都宮市・吉田氏＞

- ・ネットワーク型コンパクトシティの一環としてLRTの整備を計画。LRTだけでは実現できず、バスの再編・新設や地域内交通の充実も行う。
- ・交通結節点の整備も推進。LRTの駅は乗換拠点として、駐輪場・駐車場、行政施設、子育て施設、商業施設等を整備し、各地域の拠点にしていく。
- ・車に慣れ親しんだ人々に公共交通の重要性を説くのは難しいが推進する。

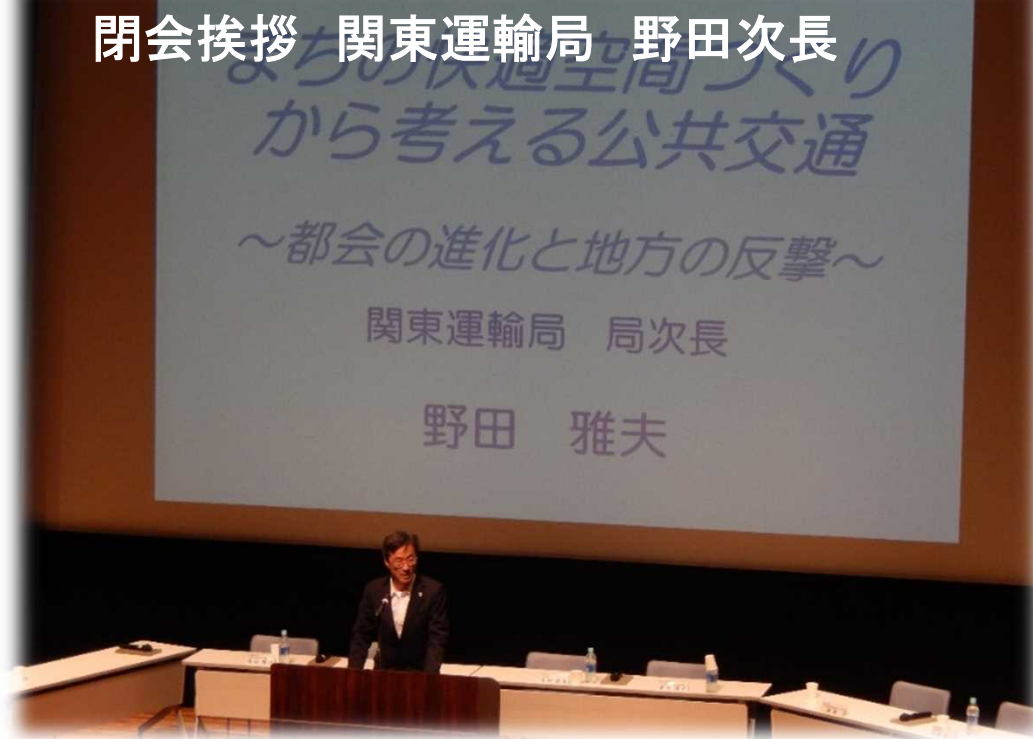
＜横浜市・鈴木氏＞

- ・郊外住宅地の高齢化・老朽化・コミュニティ希薄化といった課題解決に向けた、横浜市の「持続可能な住宅地モデルプロジェクト」の紹介。
- ・まちの活性化のためには、住宅整備に併せて関連施設、特に公共空間の創出・活用が重要。人がつながり賑わいが生じる。ハード整備に加え、地域全体でエリアマネジメント、ひとづくりをしていくが必要。

来賓挨拶 時事通信社 杉本業務局次長



閉会挨拶 関東運輸局 野田次長



ミニクイズの当選発表



混雑する閉会後のロビー



ご登壇頂いた皆様
ありがとうございました。



出席者数(申込者数) 約420名

登壇者	6名	マイスター	3名
都道府県	23名	市町村	83名
鉄道会社	81名	バス会社	52名
一般企業等	80名	NPO・個人等	14名
協力団体等	40名	主催者	32名
事務局	10名		

「まち快適空間づくりから考える公共交通」のテーマに関心をお持ちいただき、本シンポジウムに参加・協力いただいた方、皆様に厚く感謝申し上げます。